

第三回 荒川区区政改革懇談会

グループ討議会議録：茜

【日時】

9月29日(木) 10:00~12:00

【場所】

荒川区役所 305会議室

【次第】

ステップ1：はじめに

ステップ3：今日の話し合いの内容確認

ステップ2：こうなって欲しいまちの姿と課題を話し合おう

ステップ4：その他

ステップ1：はじめに

【自己紹介】

今回から新しくメンバーになった方の自己紹介を行なった。

【前回の話し合いの内容確認】

コンサルタントにより、前回の内容の確認と今回の話し合いの方向性(こうなって欲しいまちの姿についての議論を行うこと)の説明がなされた。

ステップ2：こうなって欲しいまちの姿と課題を話し合おう

全体的なこうなって欲しいまちの姿・方向性等から議論し、その次に具体的な「教育」、「まちづくり(ハード面)」、「コミュニティ」等の分野別について議論をしていくという方法と、逆に分野別から議論し、それらを見ながら全体的なこうなって欲しい姿を議論していくという方法がある。このどちらかで行っていくこととした。

基本的には全体的な話をしてから、分野別という方向で話し合っていくことにした。

【全体的な荒川のこうなって欲しいまちの姿について】

- ・ まずは荒川区から転出したいと思ったことがあるのであれば、その理由について話し合ってみたらどうか。
- ・ 確かに、荒川区を出たいと思ったことはあった。移り住むなら、緑が多く、安全面、教育面でも充実している文京区が良いと思う。
- ・ 生まれは栃木県で、他区にも20年ほど住んでいたが、荒川区だと暮らしているという実感が湧く。ずっとここに住むのだろうという気もしている。
- ・ 結婚してから荒川区に移り住んだが、子供を近所の人に預けられる等の人情・近所づきあいがあり、住みやすい。以前住んでいた区はただそこに生きていくといった感じだけで、人との交流がなかった。

- ・ 子供ができてから、人と人とのつながりの大切さがわかった。人とのつながりは物やお金では代えられないものである。荒川区ではそういった人とのつながりの関係を築くことができたので転出することは無いだろうと思う。
- ・ 理想としては、子どもが健やかに暮らせるまちであつたらいい。
- ・ 子を持つ親としては、安心して子育てができるまちであつて欲しい。
- ・ お金をかけないで心豊かに暮らせるまちと言うのが理想だと思う。
- ・ 文教地域としての街であつたらいい。

【教育のこうあってほしい姿に関する議論】

- ・ 近隣区で教育レベルが高いイメージがあるところもある。親としては子供には、早くからいい教育を受けさせたいと思う。
- ・ 越境入学する子どもも多いが、その子どもたちが地元の荒川区を愛していけるのか疑問に思う。自分の住んでいるまちを愛するという事は重要なことだと思う。
- ・ 地元の友達をつくるために、小学校入学時の越境入学はさせようとは思わないが、中学校入学になってくると考えてしまう面がある。
- ・ 荒川区の学校はクラス数が少なく、中には閉校した学校もある。娘は台東区の学校に入学させたが、荒川区の学校と比べて力の入れ方が違う。
- ・ 他区へ越境入学させる必要のない公教育環境にすることが重要ではないか。そして、できれば他区からも羨ましがられ、越境入学されるようになればいい。
- ・ 近所の学校はクラス数が少なかったりする。その場合、何かトラブルがあったときのことを考えると不安になる。統廃合等の微妙な問題があるが、クラスが増えれば、安心して入学させる人も増えると思う。
- ・ 近隣区の学校開放を見学に行ったことがあるが、生徒と先生の姿勢が違うように見えた。
- ・ 荒川区の学校では学校開放等で少しずつオープンになって、情報が入るようになった。これは昔に比べてすごい進歩。また、学校の選択ができるようになったのは良い事である。
- ・ 保護者の意見に対して、先生の意識や行政が敏感に対応していけば、学校は変わる。つまり、学校(行政)・保護者が常時コミュニケーションを取れるような雰囲気・仕組みを作っていくようにすべき。
- ・ 親側も、子供のしつけまで学校・塾まかせにしている意識を変えなければならない。子供の事を考えているようで、親・学校・塾は互いに責任を押し付けあって、何もしていないのが、実態なのではないか。
- ・ 親は、子供を自分の所有物、宝という意識ではなく、社会みんなのものという意識を持つべき。
- ・ 塾などは授業内容をモニターでチェックできるシステムがある。公立学校も日常的に見られている意識があれば、変わるのではないか。
- ・ 学校にアンケートを提出しているが、結果を公表する学校と公表しない学校があるのはどういったことなのだろうか。
- ・ 公立学校も定期的に評価されていく仕組みづくりが必要。
- ・ 今もそうなりつつあるのと思うが、教育に関心がある人とない人との間で、二極化していくの

ではないか。これは社会の階層化に繋がってしまう。どうにかシステムを変えて、もう少し情報を得やすい環境をつくり、関心ある人の層を広げていくべきではないか。

- ・ 少なくとも義務教育を受ける機会は平等であるべき。
- ・ 通信簿、運動会で順位をつけない等の「結果の平等化」を取り繕うとするのには疑問に思う。
- ・ 昔の先生のイメージは絶対的なものだったが、現在の荒川区ではそういうイメージはない。
- ・ 子供に関わっている人たちが、一緒になって考えていくことが必要である。
- ・ 英語だけの特区ではなく、全体的な学力向上特区などとして、惹きつけていったら良い。
- ・ ニート・フリーターが 20 万人に達しているが、教育・モラルの面で、何でも便利な暮らしを目指していくといった方向性は見直した方がよいのではないだろうか。

【ハード面(交通・都市基盤)のこうあって欲しい姿に関する議論】

- ・ 日暮里のエスカレータは駅の中にはできたが、外側のエスカレータはどうなのか、工事の人に聞いたら、予算がついてないので未定と言われた。
→回答、平成 19～20 年頃に完成する予定。

【コミュニティ・文化・生涯学習のこうあって欲しい姿に関する議論】

- ・ お金をかけない暮らしやすいまちであれば、結果的に良いコミュニティができあがると思う。
- ・ 自分の子供が地元の囲碁クラブに通っているが、通い始める前と比べると、高齢者とのコミュニケーションができ、しつけ・礼儀が身につく、子供が生き生きとしてきた。放課後の子供達がいるいるな世代の人たちと接する場所があればいいと思う。
- ・ 様々な人と接して、経験を積ませるのは、とても良い事である。子供を誉めてばかりいるのは、必ずしも良いことではない。
- ・ 地域コミュニティは重要だが、今時、どういう人がいるかわからないので、コミュニケーションがとりづらい面がある。
- ・ 横浜には、はまっこクラブというシステムがあり、放課後、子供達が集まってくるものがある。そのようなものがあっても良い。
- ・ 自分の子供は剣道を習っており、とても厳しく指導されているが、先生が好きである。子供は誉められるだけでなく、厳しくしてほしい気持ちがある。大人に凜とした姿勢があれば、子供はついて行くはず。
- ・ 子供だけでなく、様々な世代の人が集まれる、江戸時代の番屋の様な場所があれば良い。
- ・ 昔のように、路地裏が子供達の遊べる空間になれば良い。
- ・ 約束がなくても、そこに行けば、子供達が一緒に遊べる場所があれば良い。
- ・ ひろば館に遊びに行くときはゲーム機を持って行ってはいけないと思っていたが、問い合わせをしたら、個人の自由と言われた。せっかく一緒にいても、結果的にコミュニケーションがとれなくなってしまうのではないだろうか。
- ・ 尾久の原公園も他区であるようなプレイパークのようにして、泥だらけになりながら、遊べる場所になってほしい。
- ・ 今のひろば館にしても、小学生・中学生などの間で、世代が変わってしまうと一緒に遊べないといったような世代間分断がある。いろいろな世代がふれあえる場があるべき。
- ・ 学校がコミュニティの核となる場所になればよいのではないか。

- ・子育てに幅広い年代が関われる地域社会であつたら良い。
- ・ 囲碁等、どの世代でもやれる趣味的なものからまちおこしができるのではないだろうか。高齢者にとっては認知症の防止に繋がるし、子どもにとつてもしつけに繋がる。
- ・ 趣味と地域活動をつなげていくことをうまくサポートしてくれる仕組みを区には作ってもらいたい。

ステップ3：今日の話し合いの内容確認

本日の話し合いの内容確認がなされた。

ステップ4：その他

【その他】

11 月中間報告会の開催案内を行った。

【次回について】

次回日程は 10 月 14 日(金)の 10:00 から。